

上島の文芸

弓削短歌会【弓削】

石山のみどりの濃淡こんもり萌え竹林ゆれて村を見守る 平川 房子
 猛暑日の照りつく日差し葉に受けて蔭さやさと揺れて涼よぶ 福原 洋子
 砂浜に焚き木の後の残るまま足裏を焼く夏が又来る 松本 悦郎
 釣りアジの一尾丸ごと刺身にしこの食欲にまだ生かされる 安川 二三子
 百合あやめ紫陽花の鉢二十余り並ぶる家あり今まつ盛り 和田 綱郎
 長雨は空洗いしか弓削庁舎の蒼天に美し日の丸揺る 有吉 貞子
 公園にダチュラの花の赤く燃え瀬戸の島にも暑さ夏来ぬ 石田 富美子
 逝く夏の潮の音しずか岩かげに浜撫子のひと群咲ける 上村 美智子
 岩城富士に懸かる笠雲傾きてそぞろ歩きの梅雨明けの朝 島田 義治
 朝々の散歩に出でゆく母の背右にゆうらり左にゆらり 地元 静子
 真白なる小さき五弁の花したし毛氈苔に水無月の橋本喜代子

双葉吟社【岩城】

緑濃く積善山に夏あふれ 児島 泰
 故郷の清水豆腐や冷奴 伊佐 幹男

伏せ犬の舌ながながと土用かな
 ところてんつるりと喉に心地よし

もてなしは切子の器冷奴

冷奴たっぷりの葱花かつお

夜濯や孤独を刻む古時計

沙羅双樹釈迦の入滅想うかな

絹よりも木綿好みの冷奴

土用浪男の背のび桂浜

田中 華丘

山元 征子

美濃部 妃苗

林 七重

古林 幹枝

森本 和佳

田名後 篁雨

幸本 孤燈

試合結果

第14回四国総合バドミントン選手権大会

愛媛県予選

(7月17日～18日県総合運動公園体育館)

4部 女子ダブルス

準優勝 金本紗貴・福田真梨 (弓削高校)

第13回今治ダブルスバドミントン大会

(7月25日 今治市営中央体育館)

1部 女子

第3位 加藤美美・川本愛実 (弓削クラブ)

4部 女子

第3位 小田萌子・田窪千暖 (弓削高校)

平成22年8月1日から、父子家庭のみなさまにも
児童扶養手当が支給されます！

児童扶養手当制度

児童扶養手当とは、父又は母と生計を同じくしていない子どもが育成される家庭（ひとり親家庭）の生活の安定と自立の促進に寄与し、子どもの福祉の増進を図ることを目的として、支給される手当です。

【支給要件】

- ◆ 父母が婚姻を解消した子ども
- ◆ 父又は母が死亡した子ども
- ◆ 父又は母が重度の障害のある子ども
- ◆ 父又は母の生死が明らかでない子ども
- ◆ 父又は母が1年以上遺棄している子ども
- ◆ 父又は母が1年以上拘禁されている子ども
- ◆ 母が婚姻によらないで懐胎した子ども
- ◆ 父母ともに不明である子ども

【所得制限】

請求者、同居している扶養義務者等の前年（1月から6月までの間に請求する方については前々年）の所得が、一定以上ある場合は、その年度の手当は支給停止になります。

大事なお知らせ

児童扶養手当を受給するためにはお住まいの市町村へ申請（認定請求）が必要です。役場に早めにお問い合わせの上、平成22年11月30日までに手続きをしてください。（11月30日を過ぎると、申請の翌月からの支給になります。）

【問合せ先】各総合支所 住民課 児童手当担当

弓削総合支所 TEL 77-2503
 生名総合支所 TEL 76-3000
 岩城総合支所 TEL 75-2500
 魚島総合支所 TEL 78-0011

かみじま歴史探訪

郷土の先輩たちシリーズ⑦

「朝鮮出漁の父」有永長治郎



初代村長 有永長治郎
(魚島総合支所 所蔵)

『魚島村誌』の人物伝の最初に登場しているのは「実業家 有永長治郎」です。「有永佐太郎次男で、嘉永二（一八四九）年八月六日、本村に生まれる。十二歳で大阪に出て六年間奉公していたが、その時、鳥羽伏見の変があつて：逃れて国に帰り、実父の所有する船に乗って九州沿岸、宇和島、大阪間を航海し…」

郷里に帰った長治郎は、明治二年には分家して、農業と漁業に専念しますが、生計は大変でした。それでも、村内では屈指の資産家であつた本家の補助は受けなかつたと記されています。

「人物伝」の補足（口碑）によると、その通称は「目玉さん」。「道路で行き会ふと眼をそらし、また遠くからその姿を見つけると、行き合ひぬよう道順を変えた人もあつた。」

明治十五年六月から魚島村の戸長（村長）。市制・町村制の施行によって同二十三年に魚島が弓削村に合併されると辞職。その後、同二十八年に再度独立して魚島村になると、ふたたび村長。明治四十一年に辞職してからは、魚島郵便局長に就任しています。

でした。愛媛県（当時は香川県を含む）の鳥嶼部は壊滅的な打撃。その際、村民を激励して、江の島を開墾、その耕地面積は四十余町。島民は急場をしのぎました。

一方では、個人で所有していた吉田漁場を村有とし、また遠洋漁業の推進を図り、明治十四年に朝鮮の釜山付近を視察。遠洋漁業に未来を賭けました。

り、愛媛県は半島出漁に奨励金を給付しました。明治四十三年には韓国併合に進み、韓国にとっては苦難の時代でした。ときには巨済島でも地域の住民との間に紛争が起りました。でも、見事に解決します。『広報うおしま84号』には、「巨済島民と友好のきずなを！いまよみがえる証明書」と題して、明治四十二年五月に結ばれた誓約書が紹介されています。（有永登発見、『魚島村誌』編者村上和馬翻訳に協力）

『魚島村誌』の第五章漁業関係資料の「朝鮮出漁の父有永長治郎」には次のように紹介されています。

一、女性を街路で、からかつたりしないこと
一、漁業はお互いに仲良く営むこと
一、村内では服を脱いで歩かないこと
一、日韓人が互いに争わないこと
一、牛や犬をいじめないこと（後略）

「明治二十四年、有永氏率先シテ朝鮮ニ縛網ヲ試ミン事ヲ企画：首尾ヨク釜山ニ着シ、言語不通ノ風俗習慣ヲ異ニスル鮮人部落ヲ踏破シテ魚場ノ探検ヲ試ミツツ、巨済島ニ渡リ、旧助羅湾ノ地ヲ基地トシ：」この巨済島一帯は、豊臣秀吉が強行した文禄・慶長の役（韓国では壬辰・丁酉の倭乱と呼ばれている）の際には、重要な戦場となつた島々です。

太平洋戦争の終結で巨済島も大転換。『魚島村誌』にはその推移が集約、また第五章漁業関係資料には「韓国側から見た朝鮮出漁」（韓国の研究者、金秀姫の執筆）も掲載されています。平成十九年五月には、巨済島の愛光園の金園長の魚島来訪が、有永登や元村長佐伯眞登ほかの有志によって実現。一行は弓削島では上村町長を表敬訪問。生名島の老人ホーム海光園も視察しました。（詳細は『巨済島愛光園交流資料』）

日清・日露戦争で日韓両国の関係も変動します。その間に、巨済島の旧助羅には、多数の魚島の出身者が登場。『魚島村誌』の漁業関係資料には「巨済島と魚島漁民」と題した有永登（祖父が長次郎の兄）の回想録も集録されています。「私は巨済島で（昭和二年に）生まれ：当時、旧助羅には網元（船主）として大林金次郎の一号、二号があり、外に大林善作・大川貞吉・因幡其一・大林某：知世浦には横井某氏がいて…」

平成十九年十二月には、上島町長や魚島の一行が巨済島を訪問、日韓交流を深めました（『広報かみじま』41号）。本年は日韓併合から百年に当り、日韓の新しい友好が国際的にも注目されています。大正十三年十月十一日に歿した長治郎翁も感無量ではないでしょうか。



巨済島「愛光園」金園長
上島町訪問時の様子
(平成19年5月撮影)

弓削商船高専・岡山商科大学名誉教授
村上 貢 稿